







決 裁	議 長	局 長	次 長	係 長	係 員
					

派遣承認要求書

令和3年12月20日

栗原市議会議長 殿

会派名 政策フォーラム
代表者 石川 正運 印

下記のとおり議員を派遣したいので、承認されるよう要求します。

記

日 時	平成4年1月11日 (火) 8時58分から 平成4年1月12日 (水) 18時01分まで
派遣先	・(公財) 鹿沼市農業公社、(有) 農業生産法人かぬま 栃木県鹿沼市塩山町1332-19 ・手賀沼水環境保全協議会 (千葉県環境生活部水質保全課) 千葉県中央区市場町1-1
派遣目的	・(有) 農業生産法人かぬまが手掛ける、付加価値を加えた加工生産物の開発及び販売、ブランド米、有機農産物の生産販売についての机上調査及び現地調査 ・手賀沼水環境保全協議会が取り組む、手賀沼の水質浄化及び手賀沼周辺の環境保全についての、水質浄化事業、水質や水生生物に関する調査・研究事業等の机上調査及び現地調査
経 費	旅費：102,690円 (1人あたり34,230円)、視察先へのお土産代 その他経費 (政務活動費以外)：レンタカー代、ガソリン代、高速代
派遣議員氏名	石川正運、佐々木嘉郎、佐藤久義
議長依頼文の要否	(要) 否
備 考	参加者：高橋義雄、阿部貞光、澤邊幸浩、高橋将、高橋勝男、菊地広志、菅原麻紀

※ その他資料があれば添付願います。



視察研修結果報告書

令和4年 1月31日

栗原市議会議長

殿

会派の名称及び代表者氏名
又は会派に所属しない議員氏名

政策フォーラム
石川 正運



視察・研修した結果について、下記のとおり報告します。

記

1 期 間 令和4年1月11日（火）から令和4年1月12日（水）

2 視察研修先 （公財）鹿沼市農業公社、（有）農業生産法人かぬま

手賀沼水環境保全協議会（千葉県環境生活部水質保全課）

3 目 的 ①（有）農業生産法人かぬまが手掛ける、付加価値を加えた加工生産物の開発及び販売、ブランド米、有機農産物の生産販売についての机上調査及び現地調査
②手賀沼水環境保全協会が取り組む、手賀沼の水質浄化及び手賀沼周辺の環境保全についての、水質浄化事業、水質や水生生物に関する調査・研究事業等の机上調査及び現地調査

4 調査研究内容

①（公財）鹿沼市農業公社、（有）農業生産法人かぬま

栗原市では農業従事者の高齢化、耕作放棄地の増加など様々な課題が山積している。農業に力を入れている他地域の先進事例を研究したいと思っていた。

（公財）鹿沼市農業公社、（有）農業生産法人かぬま担当者から懇切丁寧に説明を受けた。以下の通りメモした。

- ・自脱型コンバイン7台、汎用型コンバイン5台、トラクター13台、観光いちご園（いちご狩り、直売所販売のみ）11棟これらの修繕は全て職員が行う。
- ・苗づくりは全て箱にまく。75,000箱（直播はしていない）
- ・社員39人の平均年齢は48歳、他産業に負けない賃金にしている。

・経営面積は422ヘクタール（農家539戸分をあずかる）のうち290ヘクタールが水稻で、残りは大麦、小麦、大豆、ハト麦、そばを作付。

・米は「さつきの舞」というブランドで販売。ハト麦は茶、味噌、焼酎に加工販売。

・観光いちご園は入場者数約80,000人、多くは消費者にもぎ取りしてもらう。

このような説明を聞き、質問、答えが繰り返された。見えてきた課題は、水田の出し手が多く、今後は周りの意欲のある農家に依頼、IT化を進めないと難しい。売り先の確保が最重要でJAだけでは大変な時代だ。売り歩きの営業はしない方針、東京が近いのでターゲットを絞り込む、しかし本業はあくまで農業生産なのでこのことを忘れないで取り組んでいくと話していただきました。

② 手賀沼水環境保全協議会

千葉県北西部に位置する手賀沼は、多様な生物を育むとともに、農業用水の水源としてのみならず、観光等多方面において利用されている。

しかし、手賀沼流域では、急激に都市化が進み、沼に流入する汚濁負荷が増大したことから、かつて清らかな水を湛えていた沼は水質悪化し、アオコの異常発生、水生植物や魚介類の減少で自然環境が大きく変わった。

この状況を受け昭和60年12月に、湖沼水質保全特例措置法に基づく指定湖沼に指定され、県では7期35年にわたり保全計画を策定し、下水道の整備、合併浄化槽の設置を促進し、水質保全に資する事業や、汚濁防止法に基づく上乘せ排水基準の適用といった各種施策を組み合わせて実施した。

その結果、手賀沼に流入する汚濁負荷量は削減、浄化用水導入の効果もあり、水質はピーク時に比べて大幅な改善がみられたとしている。

手賀沼の水質保全に向けた取り組み

1. 下水道の整備
2. 高度処理型合併浄化槽の設置促進（県・市）
3. し尿処理施設による処理
4. 生活雑排水等の処理施設による処理
5. 家畜排泄物処理施設の整備促進
6. 流入河川等の浄化対策
7. 河川改修を挙げ、水質保全はまずは上流部の対策に力を入れていた。

水質浄化の基本は、水を動かすこと、水の流れをつくることが何よりの改善策とのこと。

手賀沼は関東を流れる1級河川利根川から導水し、沼の水を滞留させないことで一定の水質が保たれていた。

5 参加議員

石川正運、佐々木嘉郎、佐藤久義



鹿沼市農業公社・農業公社法人かぬま視察報告

栗原市では農業従事者の高齢化、耕作放棄地の増加など様々な課題が山積している。農業に力を入れている他地域の先進事例を研究したいと思っていた。

鹿沼市農業公社、農業生産法人かぬまの担当者から懇切丁寧に説明を受けた。以下の通りメモした。

- ・自脱型コンバイン7台、汎用型コンバイン5台、トラクター13台、観光いちご園（いちご狩り、直売所販売のみ）11棟これらの修繕費は全て社員が行う。
- ・苗づくりは全て箱にまく。75000箱（直播はしていない）
- ・社員39人の平均年齢は48歳、他産業に負けない賃金にしている。
- ・経営面積は422ヘクタール（農家539戸分をあずかる）うち290ヘクタールが水稲で、残りは大麦、小麦、大豆、ハトムギ、そばを作付。
- ・こめは「さつきの舞」というブランドで販売。ハト麦は茶、味噌、焼酎に加工販売。
- ・観光いちご園は入場数約80000人、多くは消費者にもぎ取りしてもらう。

このような説明を聞き、質問、答えが繰り返された。見えてきた課題は、水田の出し手が多く、今後は周りの意欲ある農家に依頼、IT化を進めないとむずかしい。売り先の確保が最重要でJAだけでは大変な時代だ。売り歩きの営業はしない方針、東京が近いのでターゲットをしぼり込む、しかし本業はあくまで農業生産なのでこのことを忘れないうで取り組んでいくと話していただきました。